

vocaster two

ユーザーガイド

世界に向けて発信
バージョン1

Focusrite.com



目次

概要.....	3	モバイル機器からの音声を録音する.....	20
はじめに.....	3	Bluetoothを使用する.....	21
ハードウェアの特徴	4	Bluetoothアイコンのそれぞれの色の意味	22
同梱物.....	5	ビデオカメラに録音する.....	23
システム要件.....	5	Vocaster Hubソフトウェア	24
使用を開始する.....	6	マイクの調整	25
イーゼースタートツール	6	ミックスの調整.....	26
Macの場合.....	7	コンピュータからのサウンドを録音する.....	27
Windowsの場合.....	8	ループバックの使用例	28
iPadの場合.....	9	各チャンネルをソフトウェアで録音する	28
すべてのユーザー	10	各部の名称と特徴.....	29
手動による製品登録	10	トップパネル.....	29
DAWでのオーディオセットアップ	10	リアパネル.....	31
Hindenburgのオーディオセットアップ	11	仕様.....	32
使用例	12	性能仕様	32
マイクで録音する	12	物理的特性と電気的特性	33
オートゲインを使用する.....	14	トラブルシューティング	34
手動によるゲイン調整	15	著作権および法定通知	34
マイクのミュート.....	17	クレジット.....	34
エンハンスを使用する	17		
ヘッドフォンを使用する.....	18		
スピーカーを使用する.....	19		

概要

はじめに

新しいVocaster Twoオーディオインターフェースへようこそ。Vocaster Twoは、プロ品質のポッドキャストを簡単に収録できる製品です。

Vocaster Twoおよび付属の**Vocaster Hub**ソフトウェアを使うと、コンピュータやカメラ、iPadに高品質の音声コンテンツを録音できます。vlogクリエイターやナレーター、ライバー、オーディオブッククリエイターなど、あらゆるコンテンツクリエイターに最適な製品です。

Vocaster Twoは、初心者から熟練者まで、経験レベルを問わずあらゆるユーザーを対象としています。オートゲインやエンハンスなど様々な機能を備え、クリアで安定したサウンドを素早く録音できます。

Vocaster Hubソフトウェアは、シンプルな使い勝手をコンセプトに開発されています。画面上のミキサーで各チャンネルのバランスを適切に調整でき、主要な録音機能にもアクセスできます。

Vocaster Twoインターフェースは、2つの独立した高品質マイクプリアンプを備えます。それぞれのマイクでホストとゲストの声を最高の音質で収録します。

付属のUSBケーブルでVocaster TwoのUSB-Cポートとコンピュータを接続すれば、ストリーミングを生配信することも、録音した番組を後で編集してから公開することもできます。

有線もしくはBluetooth経由で対応の機器を接続することで音声による双方向のやり取りも可能になります。インタビューやその他の音声を、コンピュータやカメラに送信し記録できます。またカメラの映像と同期させてオーディオトラックを記録することも可能です。配信や収録の状況は、ヘッドフォンやスピーカーでモニターできます。

Vocaster Twoインターフェースと付属のコントロールソフトウェアVocaster Hubは、MacとWindowsのいずれにも対応しています。

USB Cポートを備えるApple iPadにも接続でき、タブレット機器の利点である可搬性と利便性を活用できます。

お探しの情報が本ユーザーガイドで見つからなかった場合は、support.focusrite.comにアクセスしてください。スタートガイドやセットアップガイド、技術サポートをご利用いただけます。

Vocaster Twoのセットアップと使い方が学べるビデオシリーズは、[Get Startedページ](#)でご覧いただけます。

ハードウェアの特徴

Vocaster Twoを使うと、macOSまたはWindowsコンピュータに最大2本の高品質マイクロフォンを接続できます。ラップトップやタブレットの内蔵マイクよりも高音質に音声を収録可能です。

マイク入力は、ダイナミックマイクやコンデンサーマイクなど、様々なタイプのマイクに対応しています。コンデンサーマイク使用時は、必要に応じてVocaster Twoからファンタム電源 (48V) を供給することも可能です。

マイク信号をUSB-C経由でコンピュータのオーディオレコーディングソフトウェアに送信し、ビットレート最大24bit、サンプルレート48kHzの録音が行えます (24bit/48 kHzは、ポッドキャストの標準的なフォーマットです)。

レコーディングソフトウェアをお持ちでない場合は、Vocasterに付属する無償ソフトウェアHindenburgの使用をお勧めします。

3.5mmジャックソケットを用いて、スマートフォン等をVocaster Twoに接続できます。Bluetoothによる接続も可能です。もう一つのソケットは、ビデオカメラへの接続に使用します。

フォンコネクタはTRRSタイプです。TRRSは双方向の信号を扱えるため、通話音声を録音したり、通話相手に収録中の内容を聞かせることもできます。

Vocaster Twoには、ヘッドフォン用とスピーカー用の出力があります。フロントパネルには1/4インチTRSソケットを2つ備え、ホストとゲストが各々のヘッドフォンを使用できます。またリアパネルにはスピーカー接続用の1/4インチTRSソケットを2つ備えています。

トップパネルには多機能ノブが搭載され、マイク入力のゲインを調整するノブと、各ヘッドフォンのモニタリングレベルを設定する2つのノブがあります。

「Host」ノブは、外部スピーカー使用時のモニターボリューム調整にも使用できます。マイクコントロールノブの周囲には、マイク信号レベルを示す2つのカーブ状ハロメーターと、ゲイン設定を表示するリングハロメーターを備えます。

それぞれのマイクに対し3個の点灯式ボタンも備え、オートゲイン機能やエンハンス機能、ミュートのオン/オフを切り替えます。

またLED搭載のアイコンでは、ファンタム電源のオン/オフ、BluetoothやUSBの接続状況を確認できます。



同梱物

Vocaster Twoには、以下が含まれます。

- USB-C - USB-Aケーブル
- Getting Started (梱包箱内部に記載)
- 安全に関する重要な注意事項

Vocaster Twoには、DAWアプリケーションHindenburgを含むサードパーティーソフトウェアのライセンスが付属します。

詳細については、focusrite.com/Vocasterでご確認いただけます。

システム要件

お使いのコンピュータのオペレーティングシステム (OS) がVocaster Twoに対応しているかを確認するには、[ヘルプセンターの互換性リスト](#)をご参照ください。

互換性リストは、OSの新バージョンのリリースに応じて随時更新され、support.focusrite.comのヘルプセンターにてご確認いただけます。

使用を開始する

Vocaster Twoをコンピュータに初めて接続すると、USBメモリー接続時と同様に認識されます。

イージースタートツール

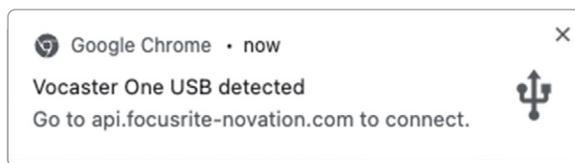
イージースタートは、Vocaster Twoを簡単に使い始めることができるオンラインツールです。イージースタートツールを使用するには、付属のUSBケーブルでVocaster Twoとコンピュータを接続し、リアパネルのUSBポート横にある電源ボタンを押します。

次ページ以降にて、イージースタートツールの使い方を解説します。実際に画面の表示を確認しながら進めることができ、初めてオーディオインターフェイスを使用する方でも安心してセットアップを行うことができます。



Macの場合:

Vocaster TwoをMacに接続すると、以下のポップアップ通知が表示され、そして/または、Vocasterアイコンがデスクトップに現れます。

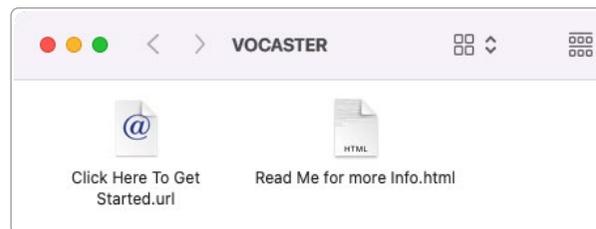


Google Chromeポップアップ通知

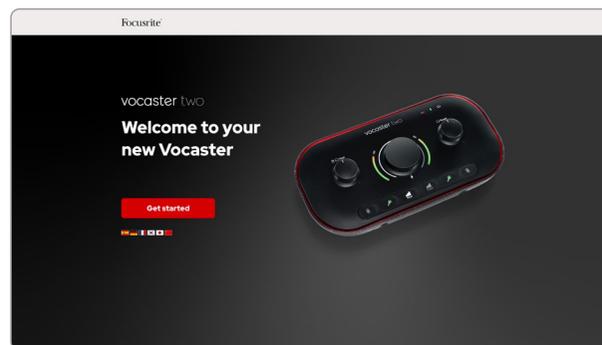


Vocasterイージースタートアイコン

アイコンもしくはポップアップをダブルクリックすると、以下のFinderウィンドウが表示されます。



Click Here to Get Started.urlアイコンをダブルクリックすると、FocusriteウェブサイトのVocasterページが表示されます。このページではVocasterの製品登録を行えます。付属ソフトウェアパッケージにアクセスできるため、製品登録をお勧めします。

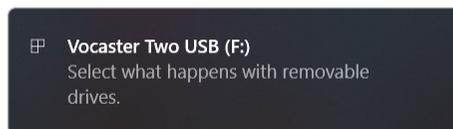


フォームを送信したら、用途別に表示される手順に従ってセットアップを行うか、直接アカウントにアクセスし**Vocaster Hub**コントロールソフトウェアをダウンロードします。

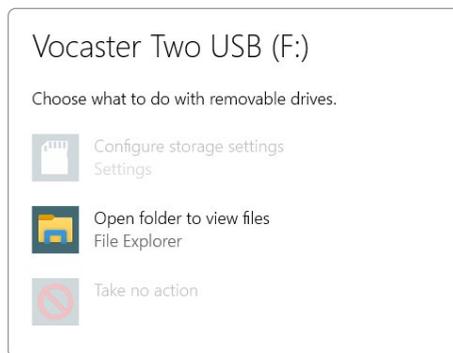
Vocaster TwoをMacに接続すると、Vocaster Twoがデフォルトのオーディオデバイスとして設定されます。設定されない場合は、**システム環境設定 > サウンド**の「入力」と「出力」タブで**Vocaster Two USB**を選択します。

Windowsの場合:

Vocaster Twoをコンピュータに接続すると、以下の通知が表示されます。



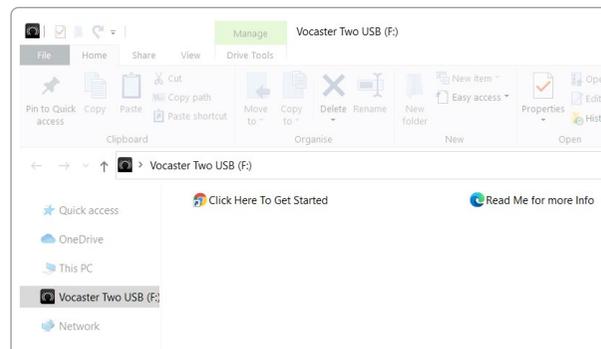
通知ウィンドウをクリックすると、以下のダイアログが表示されます。



以下のファイルをダブルクリックします。

Open folder to view files (フォルダーを開いてファイルを表示)

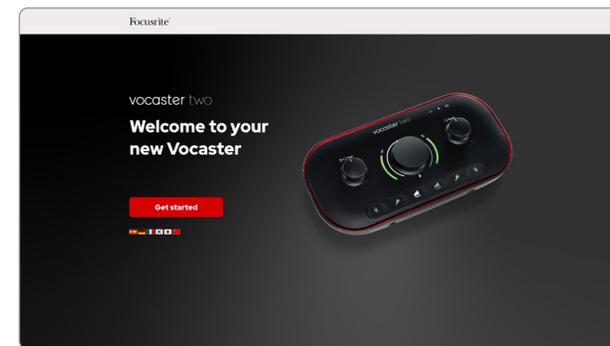
エクスプローラーウィンドウが開きます。



以下のファイルをダブルクリックします。

Click Here to Get Started.

Focusriteウェブサイトが開きますので、製品登録を行うことをお勧めします。



フォームを送信したら、用途別に表示される手順に従ってセットアップを行うか、直接アカウントにアクセスしVocaster Hubコントロールソフトウェアをダウンロードします。

Vocaster Twoをコンピュータに接続すると、Vocaster Twoがデフォルトのオーディオデバイスとして設定されます。設定されない場合は、**設定 > システム > サウンド**を開き、「入力」と「出力」でVocaster Twoを選択します。

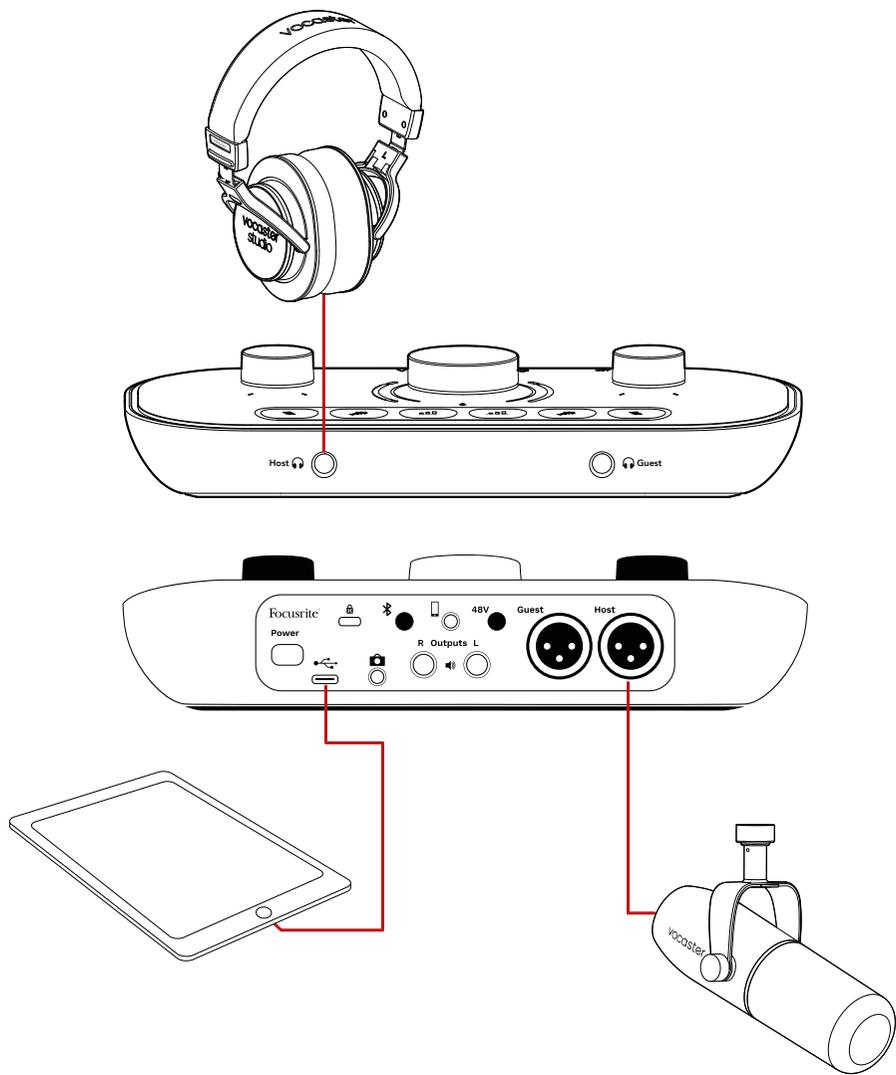
iPadの場合:

注意: Vocaster TwoをiPadに接続する前に、前述「使用を開始する」の手順に従い、Vocaster Hubで本体を最新の状態にセットアップすることをお勧めします。

Vocaster TwoをiPadOSデバイスに接続するには、以下が必要です。

- USB-Cポートを搭載するiPad
- USB-C - USB-Cケーブル(または付属のケーブルとApple USB-A - USB-Cアダプター*)

* この接続方法の場合、Vocasterの動作に十分な電力を供給するために別途USBハブが必要になる場合があります。



接続方法

1. USB-C - USB-Cケーブル(またはアダプター)をiPadに接続します。
2. 接続したケーブルのもう一方の端を、Vocaster TwoのUSBポートに接続します。
3. ヘッドフォンまたはモニタースピーカーをVocaster Twoに接続します。

iPadの音が、Vocaster Twoの出力にルーティングされます。Vocaster Twoの入力に接続したマイクやその他のソースを、音声録音をサポートするiOSアプリに入力できます。

すべてのユーザー:

イージースタートツールの使用に問題がある場合は、**More Info & FAQs**のファイルを開くことで、詳細情報やFAQをご覧ください。

注意: **Vocaster Hub**をWindowsコンピュータにインストールすると、**Vocaster Two**のドライバーが自動的にインストールされます。**Vocaster Hub**およびVocaster Windowsドライバーは、製品登録の有無に関わらずいつでもダウンロード可能です。詳細は、以下の「手動による製品登録」をご参照ください。

手動による製品登録

Vocaster Twoの製品登録は、[こちら](#)で後から行うことも可能です。その場合はシリアル番号 (UPN) を手動で入力する必要があります。シリアル番号は本体の裏面、または箱の側面にあるバーコードにも記載されています。

製品の性能を最大限に引き出すため、**Vocaster Hub**ソフトウェアのダウンロードとインストールをお勧めします。**Vocaster Hub**は、[downloads.focusrite.com](#)からいつでもダウンロード可能です。

DAWでのオーディオセットアップ

Vocaster TwoはASIOまたはWDMをサポートするWindowsベースのDAW (録音ソフトウェア)、またはCore Audioで動作するMacベースのDAWで使用できます。上述のイージースタートツールの手順に従いセットアップを行うことで、Vocaster Twoをお好きなDAWで使い始めることができます。

Vocaster Twoは、USB経由ですべての入力ソースを個別に録音でき、後でミックスの調整が可能です。また**Vocaster Hub**ソフトウェアからのステレオミックスであるShow Mix入力も録音可能です。

DAWアプリケーションをお持ちでない場合は、付属のソフトウェアHindenburgをお使いいただけます。Hindenburgは、Vocaster Twoの製品登録を行うことで使用可能になります。インストールでお困りの場合は、[こちらの](#)Getting Started ページでチュートリアルビデオをご覧ください。

Hindenburgの操作方法については、アプリケーションのヘルプファイルまたは[hindenburg.com/academy](#)をご参照ください。

注意: DAWがVocaster Twoをデフォルトの入出力デバイスとして自動的に認識しない場合は、DAWのオーディオ設定*でドライバーをVocaster Two/Focusrite USB ASIOに手動で設定してください。ASIOまたはCore Audioドライバーの設定方法については、お使いのDAWの説明書(またはヘルプファイル)をご参照ください。

*設定画面の名称は、ソフトウェアによって異なります。

Hindenburgのオーディオセットアップ

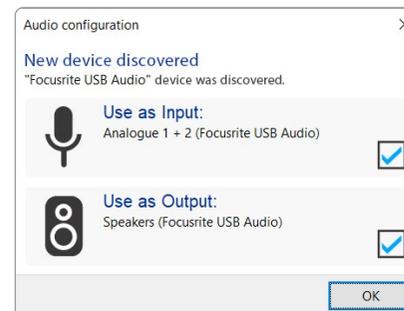
右図は、WindowsおよびMac版 Hindenburgのオーディオ初期設定での正しい設定例です。自動セットアップと手動によるセットアップが行えます。

Preferences ページ (Mac版)

または
Tools > Options > Audioタブ
(Windows版)。



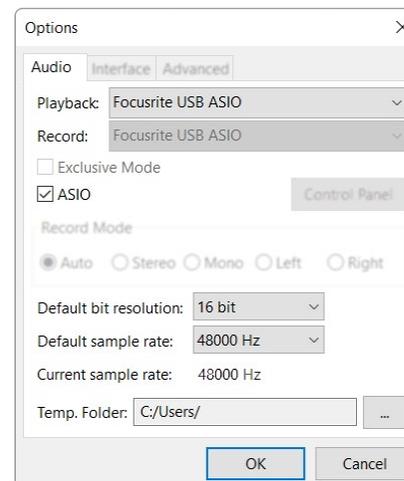
Macの自動セットアップ



Windowsの自動セットアップ



Macの手動セットアップ



Windowsの手動セットアップ

Vocaster Twoを各DAWで使用する
ためのセットアップや操作方法が学
べるチュートリアルビデオは、[Getting
Started](#)ページでご覧いただけます。

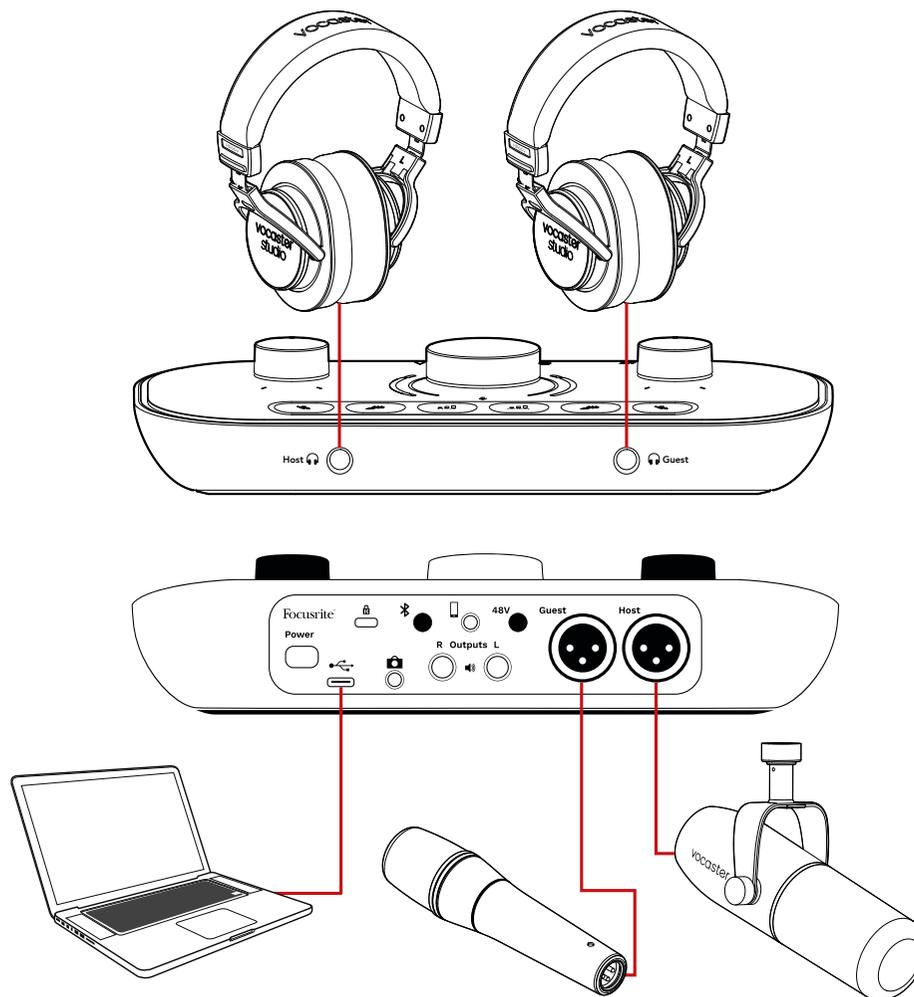
使用例

Vocaster Twoは、ポッドキャストや音声収録に最適なオーディオインターフェースです。Mac、Windows、iPadに対応し、2人でのライブ収録も可能です。一般的な接続例を以下に示します。

マイクで録音する

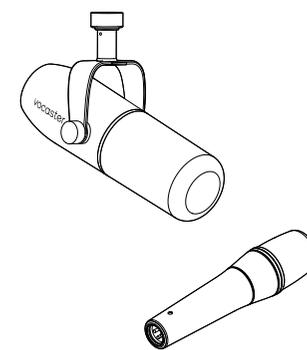
2本のマイクを用いて、Mac/Windows/iPad上のソフトウェアで録音する場合の一般的なセットアップ例です。ホストは、ヘッドフォンで自分の音声とゲストの音声などをモニターしながら録音できます。

ヘッドフォンソケット以外のすべての接続端子は、リアパネルに集約されています。付属のUSBケーブルでコンピュータをUSBポート(🔌アイコン)に接続し、電源ボタンで本体の電源をオンにします。



マイク入力端子はXLRソケットで、XLRコネクタを備えたマイクを接続できます。Vocaster Twoは、ダイナミックマイクやコンデンサーマイクなどほとんどのマイクに対応します。

音声収録にはダイナミックマイクの使用をお勧めします。ダイナミックマイクは音声の帯域を高品質に取り込むことができ、周囲の不要なノイズも拾いにくい特徴を持ちます。



2種類のダイナミックマイク

マイクで録音する(続き)

コンデンサーマイクを使用する場合は、必要に応じてXLR入力にファンタム電源(48V)を供給できます。ファンタム電源をオンにするには、HostまたはGuestボタンを押して入力を選択し、リアパネルの48Vボタンを押します。ファンタム電源がオンになると、48V LEDが赤く点灯します。

ダイナミックマイクは、ファンタム電源を必要としません。ごくまれにファンタム電源によりマイクが破損することがあります。ダイナミックマイクを使用する際は、ファンタム電源をオフにすることをお勧めします。お使いのマイクがファンタム電源を必要とするか不明な場合は、マイクの取扱説明書をご確認ください。

マイクのセットアップ

Vocaster Twoでは、2通りの方法で適切なマイクレベルを設定できます。「ゲイン」とは、マイク信号をどれだけブーストするかを表す用語です。

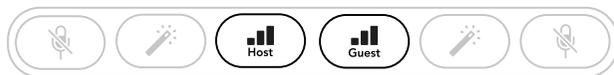
マイクレベルは、オートゲイン機能で自動的に設定するか、または手動で調整できます。次のセクションでは、これらのゲインの設定方法を解説します。



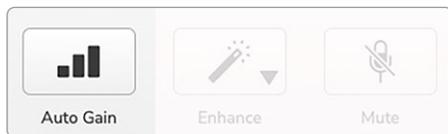
オートゲインを使用する

Vocaster Twoのオートゲイン機能を使うと、適切な録音レベルを設定できます。

オートゲインを有効にするには、 ボタンを使用します。ゲインを設定したいマイク (HostまたはGuest) のボタンを長押ししてください。コンピュータでVocaster Hubを開いている場合は、画面のオートゲインアイコンをクリックします。



Vocaster Two

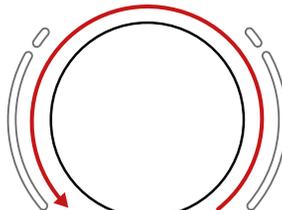


Vocaster Hub

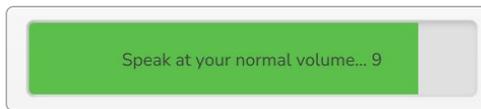
ソフトウェアまたは本体のボタンでオートゲインを有効にすると、もう一方のチャンネルのすべての入力コントロールが無効になります。

次に、オートゲインを有効にしたマイクに向かって、本番収録と同じように10秒間話してください。

 ノブの内側のリングメーターがカウントダウンタイマーとして動作し、白色の点灯状態から反時計回りにフェードアウトしていきます。Vocaster Hubにもプログレスバーが表示されます。



Vocaster本体のカウントダウン



Vocaster Hubのカウントダウン

10秒後に、オートゲインによりマイク入力レベルが適切に設定され、録音を開始できるようになります。

オートゲインを別のマイク入力にも設定する場合
世界に向けて発信

は、もう一方の  ボタンを押し、同じ手順を繰り返します。

ゲインを設定した後でも、ゲインノブでいつでも入力レベルを微調整できます。調整したい入力を選択されていない場合は、その  ボタンを押してからノブを調整してください。

オートゲインで入力レベルが変更できない場合

ハロメーターが橙色に点滅した場合は、入力レベルが大きすぎるか小さすぎるためオートゲインが適切なレベルを設定できず、最小または最大レベルに設定されたことを意味します。

メーターが赤く点滅した場合は、オートゲインが使用に適したレベルを設定できなかったことを意味します。これは、マイクレベルが低すぎて引き起こされた可能性があります。

- 別のマイクまたはケーブルで試してください。
- コンデンサーマイクを使用する場合は、48Vファンタム電源をオンにしてください。
- マイクの電源スイッチを入れてください (オン/オフスイッチがある場合)。

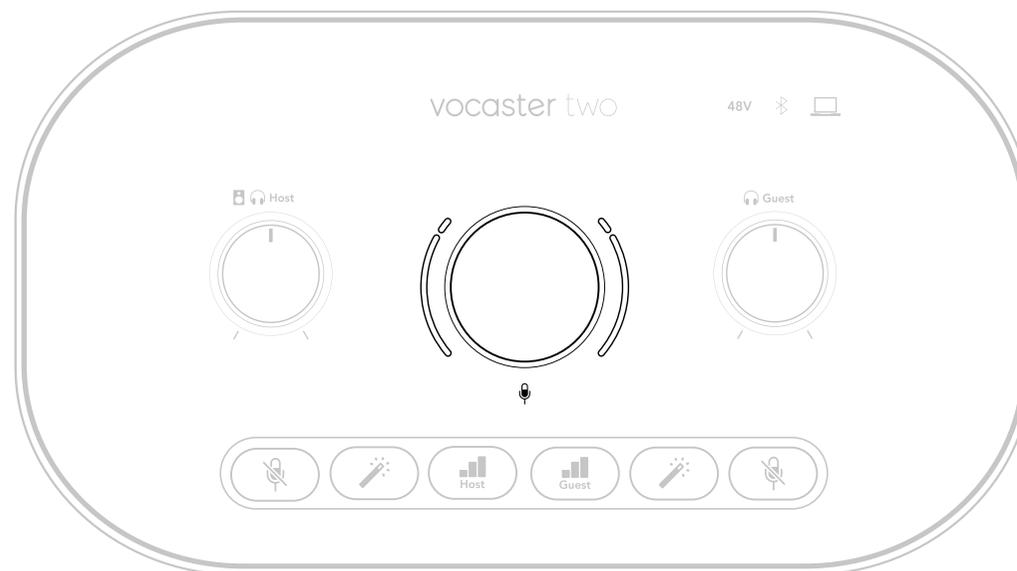
手動によるゲイン調整

マイクアイコンが下にある本体中央のノブで、ホストおよびゲストのマイクのゲインと、録音ソフトウェアへの出力レベルを設定します。

2つのマイクプリアンプのゲインは個別に変更できます。Host ■■■またはGuest ■■■ ボタンを押すと、調整するプリアンプを選択できます（ボタンを長押しするとオートゲイン機能が有効になります）。

ボタンは明るい白に点灯し、プリアンプが選択されたことを示します。

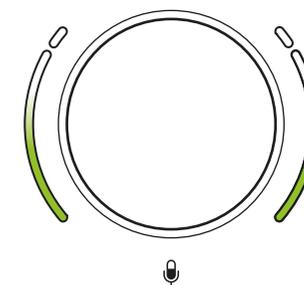
ノブを回してゲインを調整する際、左のハロメ



ーターが白く光り、ゲイン設定の値を示します。

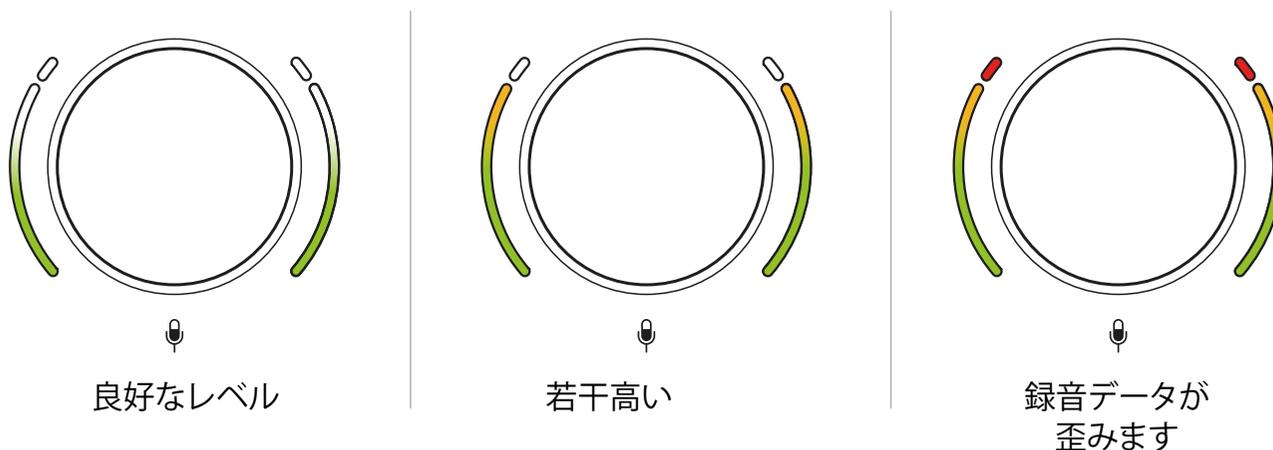
ゲインノブの周囲には、LED「ハロ」インジケータがあります。内側はリング状、外側2つはカーブ状になっています。

外側にあるカーブ状のハロメーターは、マイク信号レベルに応じて異なる色で点灯します。左のハロメーターはホスト入力、右のハロメーターはゲスト入力のレベルを示します。

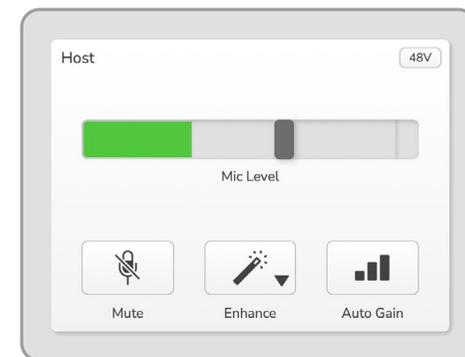


マイクプリアンプのゲインを設定するには、目的のマイク入力の **■** ボタンを短く押し、マイクに向かって本番収録と同じように話しながら、声が最大の時に外側のハロメーターが橙色になるようにノブを調整します。

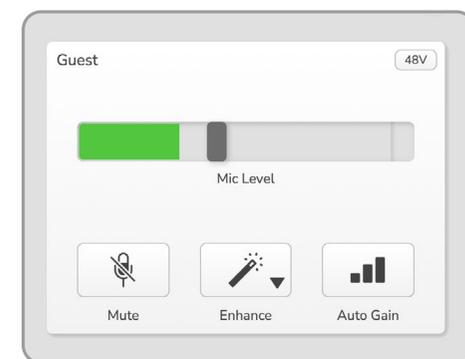
この時、橙色が消えるまでノブを少し下げます。ハロメーターの上部が赤になった場合は、レベルが高すぎて歪みの原因となるため、ゲインノブを必ず下げてください(下図参照)。



ゲインは、**Vocaster Hub**画面の**Mic Level**スライダーでも変更できます。スライダーを右にドラッグすると、ゲインが上がります。



Vocaster HubのHost入力



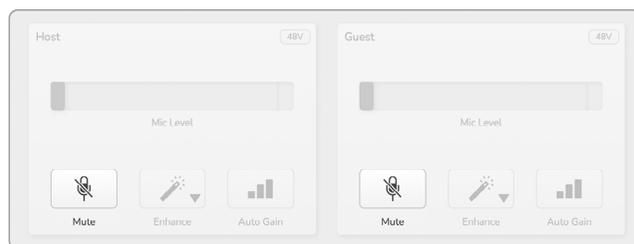
Vocaster HubのGuest入力

マイクのミュート

いずれのマイクチャンネルも、ミュートボタン  を備えます。



Vocaster Two



Vocaster Hub

ミュートボタンを押してマイクをいつでも「オフ」にできます。マイクがミュート中は、ミュートボタンとオートゲインボタンは赤く点灯し、対応するハロメーターは赤くゆっくり点滅します。ミュートボタンを再び押すと、ミュートが解除されます。

Vocaster Hubでは、いずれかのミュートボタンを押すとミュートが有効になります(放送業界では、これを「カフスイッチ」と呼びます)。

エンハンスを使用する

Vocaster Twoのエンハンス機能は、マイク信号を最適に処理するため高音質での収録が可能になります。

マイク信号のレベル調整にコンプレッサーが、音声をクリアにするためにイコライザーが、騒音やハンドリングノイズなどの不要な低域成分を取り除くためにハイパスフィルターが適用されます。

エンハンス機能は、いずれか一方もしくは両方のマイク入力に使用できます。

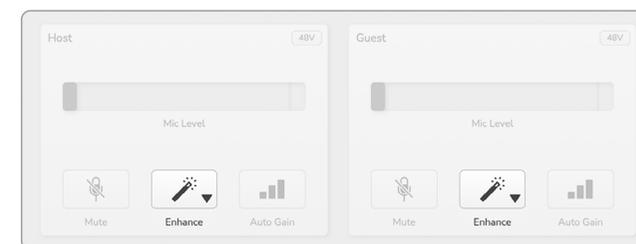
4つのプリセットを選択でき、好みのサウンドに上げることができます。Vocaster Hubでは、以下のプリセットをドロップダウンメニューから選択できます。

- Clean (クリーン)
- Warm (ウォーム)
- Bright (ブライツ)
- Radio (ラジオ)

エンハンス機能は、 ボタンを押すと有効になります。**Vocaster Hub**では、エンハンスアイコンをクリックします。



Vocaster Two



Vocaster Hub

エンハンスを有効にすると、ボタンが緑色に点灯します。ボタンを再度押すと、無効になります。

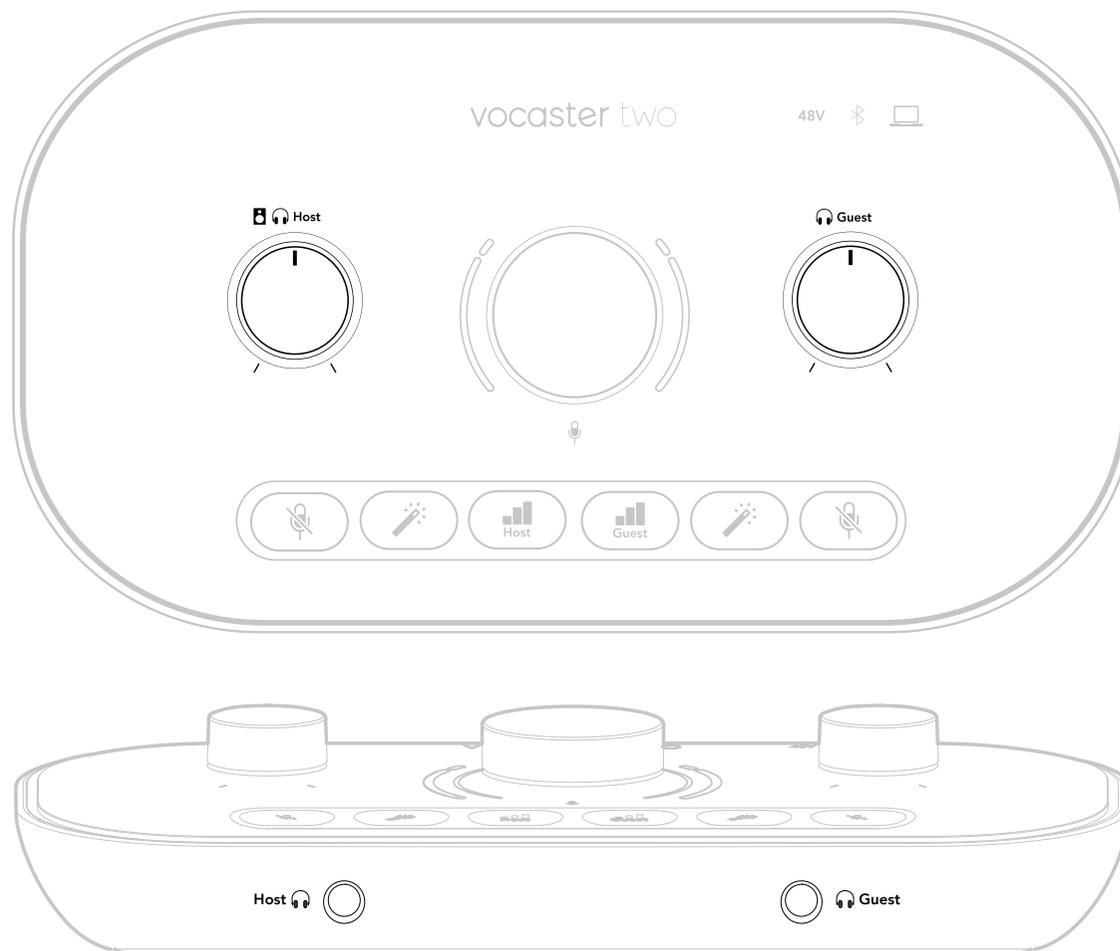
ヘッドフォンを使用する

フロントパネルのヘッドフォンソケット  にヘッドフォンを接続できます。ホストと/またはゲストがそれぞれ収録内容をモニターできます。

各ヘッドフォンからは、2つのマイク入力信号、通話やコンピュータの再生音(ループバックチャンネル)など、同じミックスがそのまま出力されます。**Vocaster Hub**のミキサーで、それぞれのボリュームを調整できます。

各ヘッドフォンボリュームは、  Hostノブと  Guestノブで個別に調整できます。これらのノブによるボリューム変更は、録音信号には反映されません。

  Hostノブは、ヘッドフォン出力とスピーカー出力の両方のレベルをコントロールします。ヘッドフォン使用時は、Vocaster Hubでスピーカーをミュートすることをお勧めします(19ページ「スピーカーを使用する」参照)。

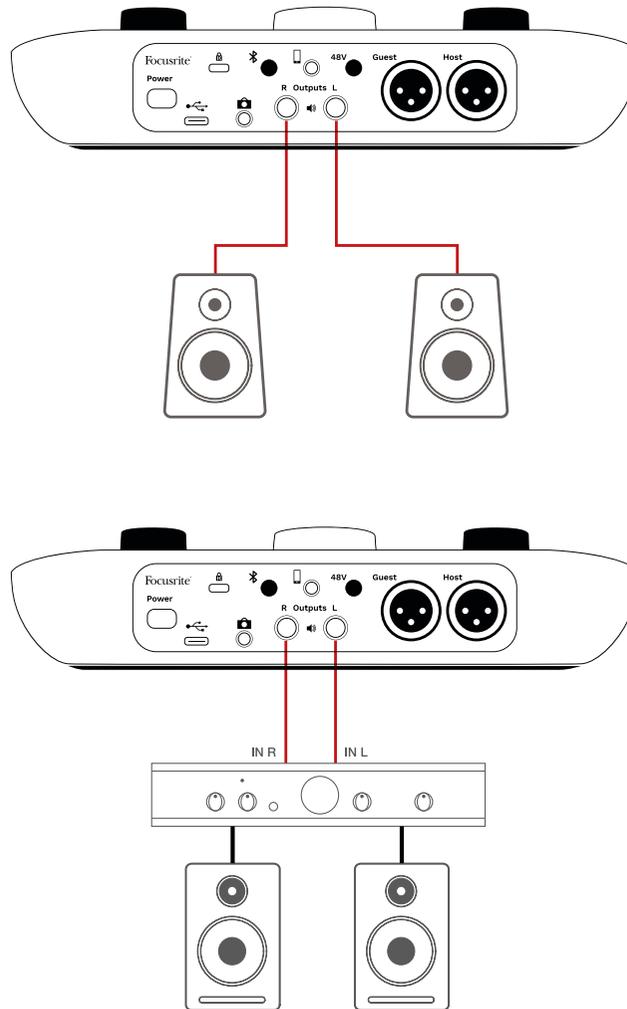


スピーカーを使用する

■Outputs RおよびOutputs Lと記載された1/4インチジャックは、スピーカーを接続するための出力端子です。

これらの出力には、パワードモニターやアンプを接続できます。スピーカーのボリュームは、ヘッドフォンと同じ■ノブで変更できます。

出力端子はバランス1/4インチTRSジャックソケットで、ラインレベル信号を出力します。小型のパワードモニターの多くは、コンピュータに接続することを想定した3.5 mmアンバランスジャックプラグを備えます。またパワーアンプの場合は、一般的にフォノ (RCA) ソケットを備えます。



スピーカーは、Vocaster Hubソフトウェアでもミュートできます。Vocaster Hubウィンドウの右上にあるスピーカーアイコンをクリックすると、ミュートのオン (赤) /オフ (黒) が切り替わります。



注意:スピーカーとマイクを同時に使用すると、フィードバックループが生じる恐れがあります。番組収録中はスピーカーの電源をオフにし、ヘッドフォンのみでモニタリングすることをお勧めします。

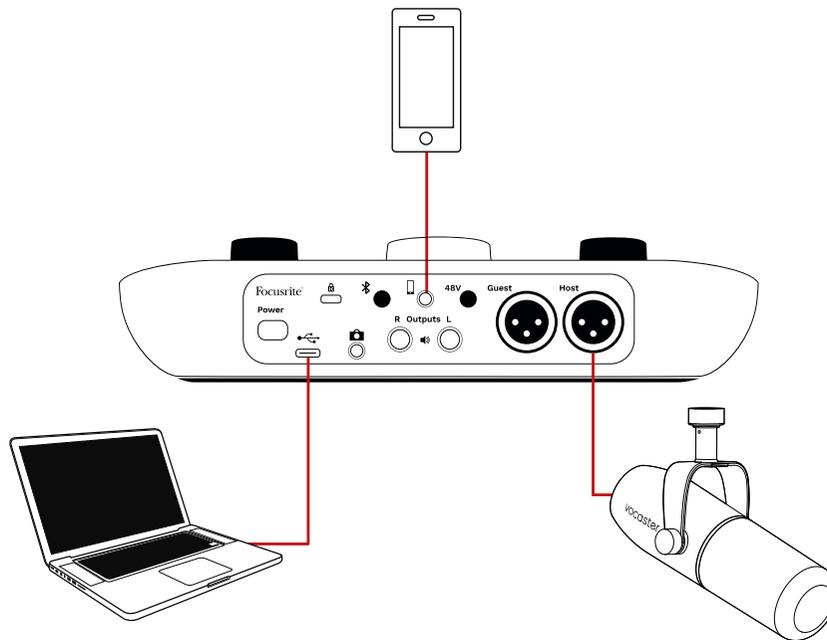
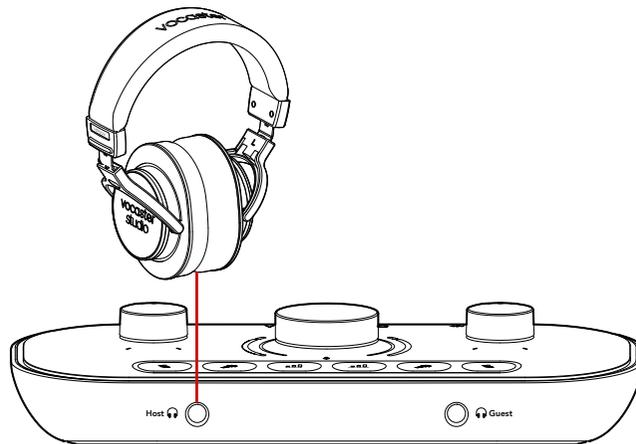
モバイル機器からの音声を録音する

スマートフォン等をVocaster Twoに接続して通話を録音したり、その機器で再生した音楽を取り込むことができます。

接続は、リアパネルにあるフォンコネクタを使用します。端子は3.5 mm TRRSジャックソケットなので、3.5mm TRRS（一般タイプ）ケーブルでモバイル機器を接続します。

3.5 mm TRSケーブルも使用できますが、通話のやりとりができない場合があります。

3.5 mm端子がない機種の場合は、3.5 mm TRRSヘッドフォンアダプタを使用できます。



このコネクタは、Vocaster Twoの出力をモバイル機器側に送信するため、通話相手には自身の声以外の番組全体のミックスを聞かせることができます。これは「ミックスマイナス」と呼ばれるミックスで、自身の声が遅れて聞こえたり、エコーになってしまうことを防ぐ利点があります。

モバイル機器へ送る信号レベルは、**Vocaster Hub**ミキサーの入力チャンネルスライダーの位置によって変わります。モバイル機器の音声入力はモノラルマイクであるため、ステレオミックスをモノラル化した信号が送信されます。

Bluetoothを使用する

Vocaster TwoはBluetooth接続に対応します。スマートフォンなどのBluetooth機器とVocasterの間でオーディオストリームの送受信*を行い、番組に取り込むことができます。

モバイル機器とVocaster Twoで音声信号を伝送するには、機器同士をペアリングする必要があります。

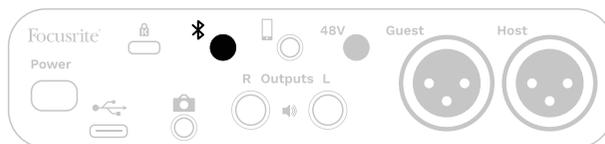
ペアリングで音声トラブルを防ぐため、モバイル機器とVocasterが、Bluetooth接続の有効範囲内であることを必ず確認してください。障害物がない空間でおよそ7メートル以内であれば、ペアリングが切れることはありませんが、有効範囲外に近いとノイズや音飛びが発生する原因となります。

Vocaster Twoは、一度に1台のBluetooth機器にしか接続できません。

*Vocaster Twoは、通話中にのみBluetoothオーディオ信号をモバイル機器に送信します。このとき通話相手には、ミックスマイナス(自身の音声以外のすべてのミックス)の信号が送られます。

対応機器をVocasterのBluetooth入力にペアリングする。

1. リアパネルの **Bluetooth** ボタンを3秒間押し続けます。Bluetoothアイコンが白く点滅し、ペアリングモードであることを示します。



2. Bluetooth機器でBluetoothペアリング設定画面を開き、新規デバイスを検出します。設定方法は機器によって異なるため、詳細は各ユーザーガイドをご参照ください。
3. 接続可能なデバイスリストから、**Vocaster BT**を選択します。
4. 確認メッセージが表示された場合は、VocasterとBluetooth機器のペアリングを許可します。

数秒経過するとVocaster TwoのBluetoothアイコンが青く点灯し、接続が確立されたことを示します。Bluetooth機器でオーディオを再生すると、**Vocaster Hub**のBluetoothミキサーチャンネルに信号が入力され、Show Mixや収録音声にBluetooth機器のサウンドを加えることができます。

Vocaster Twoに接続されたスピーカーや2つのヘッドフォン出力に対し、Bluetooth機器から音声をストリームすることも可能です。また、コンピュータのサウンドやマイク入力信号をBluetooth経由でモバイル機器に送信し、通話相手に聞こえるようにすることもできます。

Bluetoothオーディオのレベルは、**Vocaster Hub**またはBluetooth機器側で調整できます。**Vocaster Hub**では、Show Mixのレベルのみを調整します。Bluetooth L/R録音トラックのレベルには反映されません。

注意: Vocaster Twoは、Bluetoothヘッドフォンとはペアリングできません。Vocaster TwoのBluetooth機能は、Bluetoothオーディオ信号を接続機器からVocaster Twoにストリーミングし、そして機器に送信することで通話を可能にします。

Bluetooth接続を切断するには、3つの方法があります。

- リアパネルの✳️ボタンを押します。Bluetooth接続を再度有効にすると、前回接続した機器と再接続します。
- 接続機器のBluetooth機能をオフにします。Bluetooth機能を再度有効にするとVocaster Twoと再接続されます。
- 接続機器のBluetooth設定でVocasterを選択し、機器をリストから削除します（設定方法はお使いの機器によって異なります）。

Bluetoothアイコンのそれぞれの色の意味

 - 灰色 - Bluetoothがオフです。リアパネルのInsert Bluetoothアイコンボタンを押すと、Bluetoothがオンになります。

 - 橙色 - Bluetoothはオンになっていますが、機器が接続されていません。お使いのBluetooth機器とVocasterを以前にペアリングしたことがある場合は、機器のBluetooth機能がオンになっていること、またVocasterとの距離がBluetooth接続の有効範囲内であることをご確認ください。

Vocasterと初めてペアリングする機器を使用する場合は、まず上述の方法に従いペアリングを行ってください。

 - 白い点滅 - Vocasterがペアリングモード中です。機器をペアリングするには、前ページのステップ3からの手順に従ってください。

 - 赤色 - Bluetooth接続に失敗しました。✳️ボタンを押してVocaster TwoのBluetooth機能をオフにしてから接続機器のBluetoothを再度有効にし、前ページの手順を再び行ってください。Bluetoothアイコンが赤色から変わらない場合は、サポートセンターへお問い合わせください。

 - 青色 - Vocasterが機器とペアリングされ、Vocasterにオーディオをストリーミングする準備が来ています。切断するには、✳️ボタンを押すか、接続機器のBluetooth機能をオフにしてください。



Vocaster TwoのBluetoothアイコン

ビデオカメラに録音する

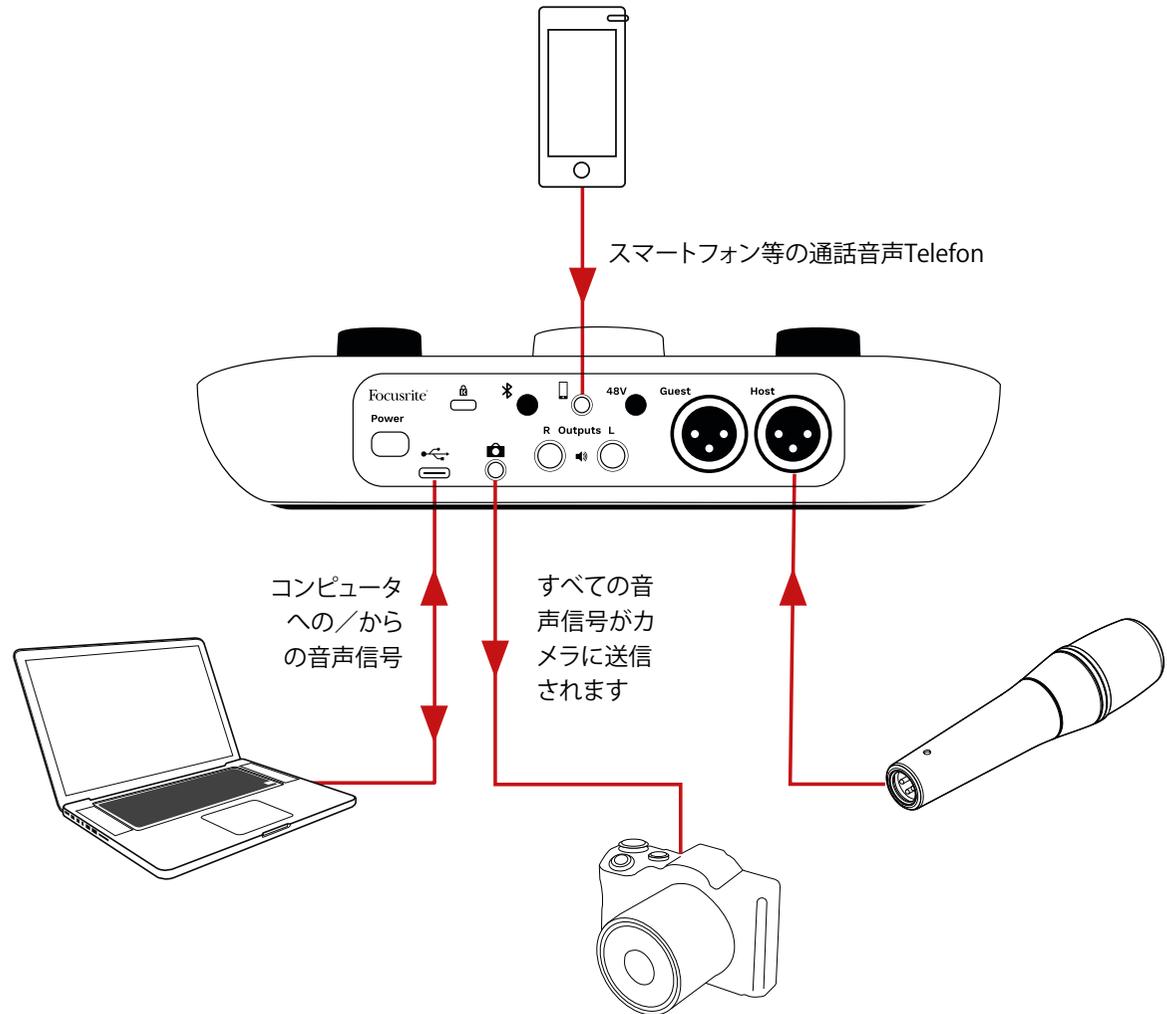
映像を扱う場合、音声をビデオカメラに直接記録することもできます。

Vocaster Twoのリアパネルには、このための出力コネクタ (3.5 mm TRSジャックソケット) があり、3.5 mmジャックケーブルを使いマイク入力やその他の音声信号をカメラに送信することができます。

カメラの音声入力端子の形状が異なる場合は、カメラに適したケーブルを使用してください。カメラの音声ソースを、内蔵マイクではなく外部オーディオに設定してください。

Vocaster Twoのカメラ出力は、USB出力と同じミックスで、ヘッドフォンやスピーカーで聞くものと同じ信号が出力されます。

カメラに送信するミックスやレベルは、**Vocaster Hub**のミキサーで調整できます。



Vocaster Hubソフトウェア

イーゼースタートツールのセットアップの際、Vocaster Hubソフトウェアをコンピュータにインストールできます。Vocaster Hubは、Vocaster Twoの様々な機能にアクセスできるソフトウェアです。マイク入力やその他の再生音などのミックスバランスを調整できる、重要な機能も備えています。

重要: Vocaster Hubのユーザーガイドは、Focusriteウェブサイトの[ダウンロードページ](#)から入手できます。このユーザーガイドには、Vocaster Hubの使用方法が詳しく記載されています。次のセクションでは、ソフトウェアの主な機能の概要のみを説明していきます。

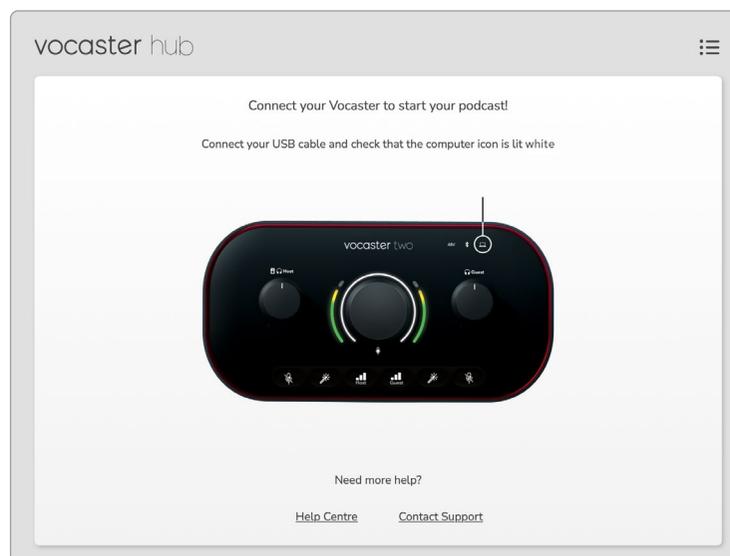
Vocaster Hubを起動する: コンピュータにVocaster Hubをインストールすると、インストール先に以下のアプリアイコンが表示されます。



アイコンをダブルクリックすると、Vocaster Hubが起動します。

focusrite.com

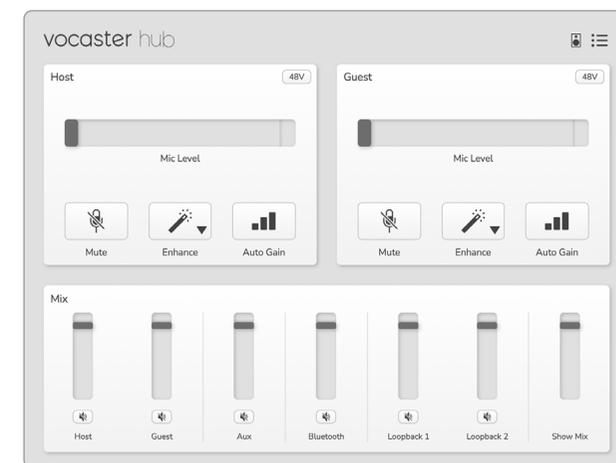
Vocaster Two本体がコンピュータに接続されていないか、電源が入っていない場合は、以下のウェルカムページが表示されます。



画面下の[Help Centre](#)または [Contact Support](#) リンクから、ヘルプセンターとサポートページにアクセスできます。チュートリアルビデオを含むVocaster Twoの詳しい使い方についてもご覧いただけます。Vocaster Twoの電源をオフにすると、いつでもこの画面が表示されます。

世界に向けて発信

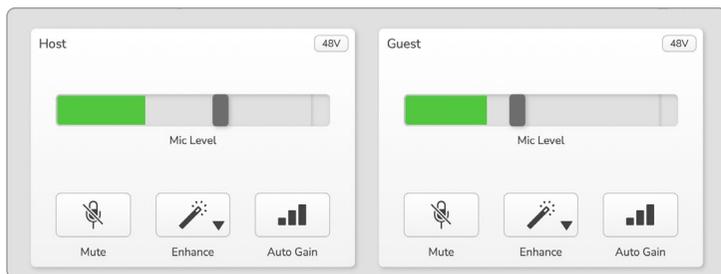
Vocaster Twoをコンピュータに接続して電源を入れると、アイコンが白く点灯しコンピュータとの通信を確認できます。しばらくするとVocaster Hubのコントロールページが表示されます。



アイコンが赤く点灯する場合は、コンピュータと通信できていない状態です。ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

マイクの調整

HostおよびGuestの入力パネルでは、Vocaster Twoのマイクチャンネルを調整できます。



Mic Levelは、2つのマイクに対しそれぞれ表示されます。各マイク入力に、レベルメーターとレベルコントロールを備え、灰色のバーをドラッグしてゲインを調整します。この操作は、本体のロータリーゲインノブでも同様に行うことができます。

カラーバーはマイクの信号レベルを示し、これも本体の信号レベルのハロメーターと連動しています。

バーの色は通常緑色で、ピークレベルに達するとオレンジ色になります。赤色になった場合は、ゲインの設定が大きすぎることを意味します。

メーター/レベル表示の下にある以下の3つのボタンは、本体トップパネルと同じボタンです。

- **Mute**  – クリックすると、マイクがミュートになります。ミュート有効時は、ボタンとレベル表示が赤色に点灯します。このとき本体のミュートおよびオートゲインボタン、そしてミュートしたマイクのレベルメーター（カーブ状）が赤く点滅します。ボタンを再度クリックすると、ミュートが解除されます。
- **Enhance**  – クリックすると、エンハンス機能が有効になり、画面上と本体のボタン両方が緑色に点灯します。ボタンを再度クリックするとエンハンス機能が無効になります。
- **Auto Gain**  – クリックすると、オートゲイン機能が有効になります。本番収録と同じようにマイクに向かって10秒間話すと、ゲインが設定されます。



ミックスの調整

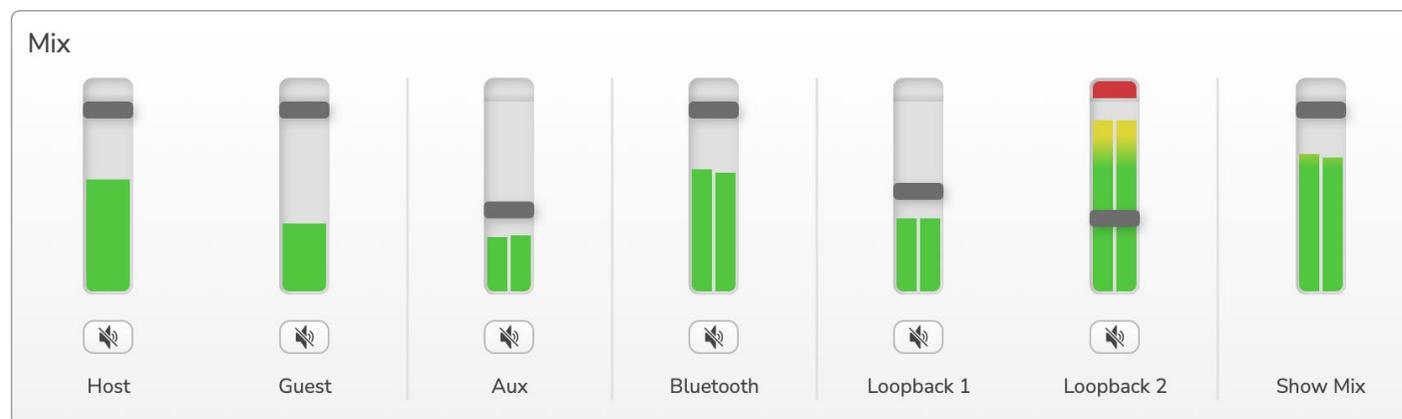
Mixセクションでは、Show Mixを構成するオーディオ入力やコンピュータ出力のバランスを調整できます。

Mic Levelコントロールと同様、スライダーでメーター表示とレベル調整が可能です。スライダーの操作は、ヘッドフォン/スピーカー用のミックスやShow Mixの録音に反映されますが、お使いの録音ソフトウェアの各入力チャンネルレベルには反映されません。ミキサーでは、以下のチャンネルが表示されます(左から右)。

- **Host** (モノ) – Vocaster Twoのホスト側マイク。

- **Guest** (モノ) – Vocaster Twoのゲスト側マイク。
- **Aux** (ステレオ) – リアパネルの  コネクタにモバイル機器を接続する場合に使用します。接続機器から送信される音声レベルを調整します。
- **Bluetooth** (ステレオ) – スマートフォンやその他の機器からBluetoothでオーディオをストリーミングする際に使用します。

- **Loopback 1**および**Loopback 2** (ステレオ) – コンピュータから再生される2つのオーディオソースをコントロールします。インターネットや録音済みファイル、その他のソースを使用できます。下の画面ではLoopback 2がクリップを示しており、この場合は赤いクリップインジケータが表示されなくなるまでソースレベルを下げる必要があります。
- **Show Mix** (ステレオ) – ミキサー全体の出力レベルをコントロールします。



Loopback 2チャンネルのメーター上部の赤い部分は、クリップインジケータです。これは、**ソース**のレベルが大きすぎることを意味し、録音に歪みが生じる恐れがあります。ただしBluetoothおよびLoopbackでは、頻繁にクリップインジケータが表示されることがあります。

クリップが表示された場合は、**ミキサー内のスライダーではなく、ソース側のトラックレベルを下げてください。ただしShow Mixがクリップした場合は、ミキサー内のトラックレベルを下げてください。**

コンピュータからのサウンドを録音する

Vocasterのループバック機能を使うと、コンピュータ内のオーディオソース（ウェブブラウザの音声出力など）を録音できます。

Vocaster Hubミキサーには、2つのステレオLoopbackスライダーがあります。これらはVocaster Twoの「仮想」入力を使用したチャンネルです。この仮想入力は本体に入力コネクタを持ちませんが、他の入力信号と同様に扱うことができ、DAWで録音できます。

別々のアプリケーションから各ループバック入力へ信号を送信できます。ループバック入力に割り当てるアプリケーションは、各アプリケーションの出力設定で選択します。

Macユーザーで、両方のループバック入力を使用する場合は、[こちらのサポート記事](#)をご参照ください。

- Loopback 1 – このチャンネルは、出力のルーティングが再生チャンネル1-2に設定されている、または出力のルーティング設定ができないソフトウェアからの信号が入力されます。Loopback 1では、以下のソフトウェアなどが使用できます。
 - インターネットブラウザ
 - SpotifyやApple Musicなどの音楽再生ソフトウェア
 - テレビ会議用ソフトウェア
- Loopback 2 – このチャンネルは、出力のルーティングが再生チャンネル3-4に設定されているソフトウェアからの信号が入力されます。設定については、各ソフトウェアのオーディオ設定で行いますが、出力のルーティング設定ができないソフトウェアも存在します。詳細は、お使いのユーザーガイドをご確認ください。Loopback 2に信号を送信できるソフトウェアには、以下のものがあります。
 - お使いのその他の録音/再生ソフトウェア
 - VOIPおよびテレビ会議用ソフトウェア

ループバックの使用例

異なるソフトウェアの音声を個別に収録し、後でミックスを調整したい場合は、ループバック機能が便利です。たとえば、ゲストとのビデオ通話や、オーディオ再生ソフトウェアで再生したジングルの音などを使用して番組を収録する場合。

テレビ会議用ソフトウェア (Zoomなど) は、デフォルトで再生チャンネル1-2に音声を出力します。この信号は、Vocaster HubミキサーのLoopback 1チャンネルに入力されます。次に音楽再生ソフトウェアの出力を再生チャンネル3-4に設定すると、その信号はVocaster HubミキサーのLoopback 2チャンネルに入力されます。

これで、お使いの録音ソフトウェアで各トラックを個別に録音できます。

- Loopback 1の信号は、DAWチャンネル11と12に入力されます。
- Loopback 2の信号は、DAWチャンネル13と14に入力されます。

詳しい操作方法は、Vocaster Hubユーザーガイドをご参照ください。

各チャンネルをソフトウェアで録音する

お使いの録音ソフトウェアによって異なりますが、最大14チャンネルの信号を個別のトラックに録音可能です。

各チャンネルは、以下の順番にDAWに入力されます。

DAW入力番号	Vocaster入力	内容
1	Video Call L	ループバック以外のすべての入力チャンネルのミックス。いわゆるミックスマイナス信号です。ビデオ通話のゲストは、自分の声を除いたすべての番組内容を聞くことができます。
2	Video Call R	
3	Show Mix L	番組全体を録音するための、すべての入力チャンネルのステレオミックス
4	Show Mix R	
5	Host Microphone	ホスト側マイク入力
6	Guest Microphone	ゲスト側マイク入力
7	Aux L	Vocaster Twoのフォン入力に接続されたモバイル機器からの2チャンネル信号
8	Aux R	
9	Bluetooth L	Bluetooth入力からの2チャンネル信号
10	Bluetooth R	
11	Loopback 1 L	ソフトウェアの再生チャンネル1-2からの信号
12	Loopback 1 R	
13	Loopback 2 L	ソフトウェアの再生チャンネル3-4からの信号
14	Loopback 2 R	

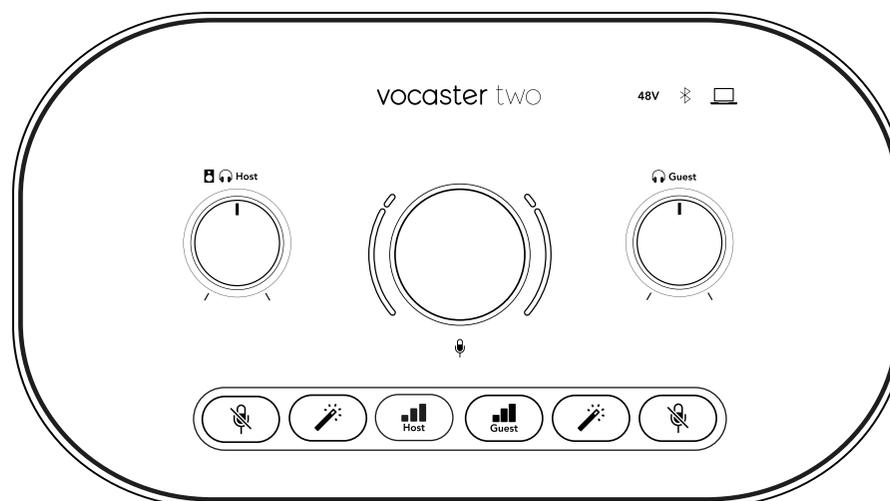
各部の名称と特徴

トップパネル

大きなコントロールノブは、**Host**または**Guest**ボタンを選択してから回すことで、各マイク入力のゲインを調整します。ノブの両脇には2つのカーブ状のLEDがあり、複数の機能を表示します。

ゲインノブの両脇にあるカーブ状LEDは、「ハロ」メーターです。左側はHost用、右側はゲスト用のマイク入力になります。

- これらのメーターはマイクレベルを示します。緑色は正常レベル、橙色はクリップに近いレベル、そして赤色はデジタルクリップを示しており、この状態は必ず回避してください。
- またマイクがミュートになると、各メーターが赤色に点滅します。



ゲインノブの内側の細いリングは、マルチ機能の「ハロ」LEDです。複数の機能で動作します。

- マイクゲインを調整しているときは白色に点灯し、現在のゲイン値を表示します。

- オートゲイン調整中は、調整時間の終了を知らせるカウントダウンタイマーとして動作します。
- 各マイクプリアンプのオートゲイン設定が完了すると、処理が正しく行われたときはメーターが緑色、失敗したときは赤色で点滅します。



ホストモニター出力レベルノブ - フロントパネルのホスト側ヘッドフォン出力とリアパネルのスピーカー出力のレベルを調整します。



ゲストモニター出力レベルノブ - フロントパネルのゲスト側ヘッドフォン出力のレベルを調整します。

トップパネル(続き)

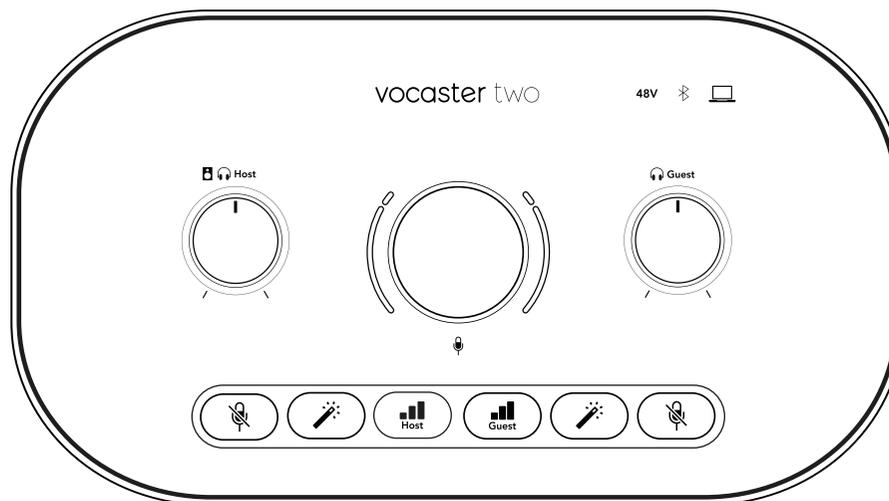
ボタン



マイクミュートボタン。 ボタンを押すことで、各マイク入力のミュートのオン/オフが切り替わります。ミュート中は、LEDが赤く点灯します。



エンハンスボタン。 ボタンを押すことで、各マイク入力でエンハンス機能のオン/オフが切り替わります。エンハンスが有効のときは、LEDが緑に点灯します。



ボタンを短く押すと、ホストもしくはゲスト側のマイクプリアンプがゲインノブに割り当てられます。長押しするとオートゲイン機能が有効になり、本番収録と同じようにマイクに向かって10秒間話すと、ゲインが調整されます。オートゲイン実行中は、LEDが橙色に点灯します。

48V

48Vファンタム電源をオンにすると、選択中のマイク(ホストまたはゲスト)のLEDが赤く点灯します。選択されていないマイクに対してのみファンタム電源が有効の場合、LEDが薄い赤色に点灯します。

インジケータ

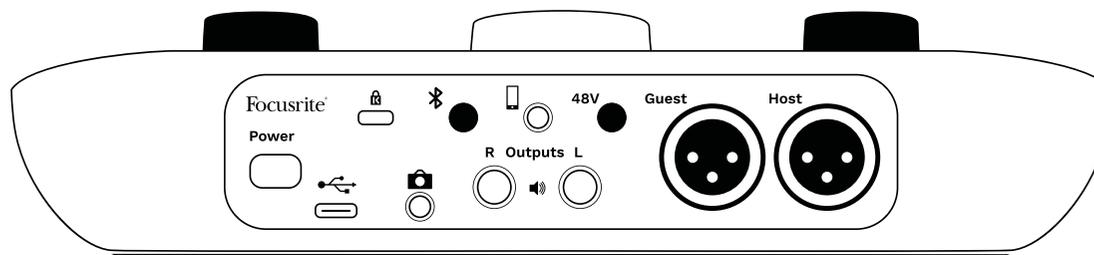


接続されているコンピュータと通信中のときは、LEDが白く点灯します。通信に失敗すると赤く点灯します。



BluetoothのステータスをマルチカラーLEDで示します。スマートフォンやBluetooth機器がVocaster Twoと接続されると青く点灯し、双方向に音声をやりとりできることを示します。

リアパネル



Power

ボタンを押して、Vocaster Twoのオン/オフを切り替えます。



USB 3.0ポート – タイプCコネクタ。付属のUSBケーブルでお使いのノートパソコンまたはコンピュータに接続します。



ケンジントンセキュリティスロット – ケンジントンロックでVocaster Twoの安全を守ります。



Vocaster Twoとビデオカメラの外部音声入力を接続するための3.5 mm TRSジャックソケット。



Bluetooth接続ボタン: 詳細は「Bluetoothを使用する」(21ページ)をご参照ください。



対応するモバイル機器を有線接続するための3.5 mm TRRSジャックソケット。



Outputs L および **R** – モニタースピーカー接続用1/4インチバランスTRSジャックソケット。TRS (バランス接続) もしくはTS (アンバランス接続) のいずれにも対応します。

48V

マイク入力用ファンタム電源スイッチ – ボタンを押すと、選択中のマイクチャンネルのXLRソケットで48Vファンタム電源が有効になります。

Host および Guest

マイク接続用XLRソケット

フロントパネル:



Host および **Guest** 用ヘッドフォン出力ソケット。ここにヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンの接続ジャックが3.5mmのミニジャックの場合は、3.5mm-1/4インチ変換アダプターを使用してください。

仕様

性能仕様

以下の仕様は、お使いの機器がVocaster Twoで使用できるか確認するための参考資料になります。ただしVocaster Twoは、ほとんどの機器で使用できるため、これらの情報に関して知識がなくても問題ございません。

サンプルレート

48 kHz

USB

バージョン	USB 3.0
最大電流	0.9A
最大電圧	5V
最大電力	4.5W

マイク入力

インピーダンス	3K Ω
最大入力レベル	+12.5dBu @ 最小ゲイン
ゲインレンジ	70dB
THD+N (@ -1dBFS)	\leq -94dB
周波数特性 (20Hz @ 最小ゲイン)	20Hz - 20KHz +0, -0.5 dB

フォン入力

インピーダンス	16K Ω
THD+N (@ -1dBFS)	\leq -94dB
最大入力レベル	0dBu
周波数特性	20Hz - 20KHz +0, -0.5

フォン出力

インピーダンス	220 Ω
最大出力レベル	-26dBu
THD+N	-73dB
周波数特性	20Hz - 20KHz +0dB, -0.5dB

ライン出力

インピーダンス	440 Ω
最大出力レベル	+14dBu
THD+N (@-1 dBFS)	\leq -96dB
周波数特性	20Hz - 2kHz \pm 0.15dB

ヘッドフォン出力

インピーダンス	5 Ω
最大出力レベル@ 0dBFS	+6.5dBu
最大電力 (mW)	8.5mW(270 Ω) 28mW(33 Ω)
THD+N	-96dB (無負荷時)
周波数特性	20Hz - 20KHz, \pm 0.5dB

カメラ出力

インピーダンス	220 Ω
最大出力レベル	-24.5dBu
THD+N (最大出力 -1dBFS, 22Hz - 22kHz)	-73dB
周波数特性	20Hz - 20KHz \pm 0.2dB

Bluetooth

バージョン	5.0
有効範囲	障害物のない空間で7メートル

物理的特性と電気的特性

その他のオーディオ入出力

カメラ出力	3.5 mm TRSジャック (リアパネル)
フォン入力&出力	3.5 mm TRRSジャック (リアパネル)
ループバック入力	2 x ステレオ (Vocaster Hub経由)

マイク入力

コネクタ	バランス、XLRメス (リアパネル)
ファンタム電源	48Vスイッチ (リアパネル)

重量および寸法

重量	440g
高さ	50mm
幅	224mm
奥行	113mm

アナログ出力

メイン出力	バランス、2 x 1/4インチTRSジャック
ステレオヘッドフォン出力	1/4インチTRSジャック (フロントパネル)
出力レベルコントロール (メインおよびヘッドフォン)	トップパネル上





トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するご質問は、以下のFocusriteヘルプセンターへアクセスしてください。

support.focusrite.com

著作権および法定通知

FocusriteはFocusrite Audio Engineering Limitedの登録商標です。VocasterはFocusrite Audio Engineering Limitedの商標です。

その他すべての商標および商品名はそれらの個別の所有者の財産です。

2022 © Focusrite Audio Engineering Limited.
無断転用禁止。

クレジット

Focusriteは、本製品のために尽力してくれた以下のVocasterチームのメンバーに感謝いたします。

Adrien Fauconnet, Alex Middleton-Dalby, Alex Wood, Andre Cerqueira, Anthony Nicholls, Ben Bates, Ben Cook, Ben Dandy, Bran Searle, Ben Cochrane, Chris Graves, Dan Weston, Daniel Clarke, Daniel Hughley, David Marston, Derek Orr, Ed Fry, Eddie Judd, Emma Davies, Harry Morley, Ian Hadaway, Jack Cole, Jake Wignall, James Johnson, James Otter, James Surgenor, Jason Cheung, Jed Fulwell, Jessica Chambers, Joe Deller, Kai Van Dongen, Linus Reitmayr, Luke Matthews, Martin Dewhirst, Mary Browning, Michail Fragkiadakis, Mike Richardson, Mukesh Lavingia, Orla Haigh, Rob Stevenson, Ryan Gray, Seraphin Gnehm, Steve Bush, Stefan Archer, Stratis Sofianos, Tom Cartwright, Vidur Dahiya, Vincenzo Di Cosmo, Wade Dawson